

大阪府森林通信

2024.6 Vol.46

カラタチ
(撮影地：枚方市穂谷地区)

橋本吉兄元副組合長理事が 黄綬褒章を受章



橋本氏は、令和5年の役員改選において、12年にわたり就任いただきました大阪府森林組合の役員を勇退されました。

氏は和泉市内に吉野林業の流れをくむ約100haの森林を保有され、自ら森林に入り保育を実践されるとともに、木材の生産までをこなす篤林家として活動されてこられました。氏が生産する木材は、密植による緻密な年輪と、最大8mの枝打ちを施すなど、優良材として高い評価を得ています。

一方で所有森林を区分し施業計画を立案し、効率的な林業経営の実践にも努めてこられました。特に省力化かつ安全な集材方法である塩ビパイプを連結して用いた「パイプシュラー」と呼ばれる取り組みが評価され、昭和60年の大日本山林会、林業経営推進行事において農林水産大臣賞を受賞されました。

また府内の系統において、昭和48年に当時の和泉市南横山森林組合の役員を皮切りに合計約40年にわたり森林組合経営の重責を担われるなど、大きな足跡を残されています。

氏の所有森林における林業経営に加え、地域の森林・林業の振興の功績を記し、大阪府を通じて国へ申請したところ、黄綬褒章の受賞が決定し、令和5年11月13日に農林水産省内で伝達、その後、皇居にて拝謁、その栄誉に浴されました。

謹んでお祝い申し上げます。



受賞された黄綬褒章

大阪府森林組合
代表理事組合長 栗本 修滋



ご挨拶

組合員の皆様におかれましてはご健勝のことと存じます。

ご健勝であっても、木材価格のことを考えると、気が滅入る日々をお過ごしのことと思います。スギもヒノキも天然更新(自然にスギやヒノキの稚樹が生え育つ)だけで、それなりに育つことが科学的に明らかになってきたています。それなりにとは、一般材の生産です。天然更新のできる場所はスギやヒノキの適地に限られます。森林生態学の知見によって、広葉樹パルプ原木も含め、コストを

最小化した林業が期待できるようなものではないでしょうか。おそらく、長期的にはこのような林業に収れんしていかざるを得ないのだらうと思います。適地適木生産は二酸化炭素の吸収や生物多様性の保持と親和性がとても高いので、国民はより多くの恩恵を受けるはずですが、国は森林の恩恵を受けている国民から森林環境税を徴収しています。そのお金は公共施設の木造化や森林整備の補助金等に使われています。しかし、現状の森林から国民は恩恵を受けているので、現状の森林所有者に直接お金を届けすのが本来のありようだと思います。森林環境譲与税の一部でもよいので、森林所有者へ直接交付する制度を創出してほしいと願っています。全国森林組合連合会をとおして国に働き掛けたいと思います。森林を所有して

いてよかつたと思える制度設計が必要でです。ところで国は人口減少を危惧し、異次元の少子化対策を発表しています。経済成長を前提とする商工業重視の社会では人口の維持が必要ですが、農業や林業を重視する社会は、自国の食料や木材資源で養えるだけの人口が前提です。江戸時代の我が国の人口は3千万人程度で、明治の初めは3千5百万人でした。ベビーブームで人口が増えた昭和25年の国勢調査による人口は約8千4百万人です。その後の経済成長とともに人口も増え、経済成長の鈍化とともに人口は停滞し、減少に転じました。商工業と農林業の両者が調和する社会を目指せば、人口が減少しても展望はあると思いますので、私たちは林業の健全化に取り組みむ必要を感じています。

Contents

ご挨拶	1	木根館 ラ・フォレスタ イベント情報	5
橋本吉兄元副組合長理事が黄綬褒章を受章	1	相続登記が義務化	5
農林中央金庫の公募事業に当森林組合応募の能勢町でのクヌギ林とクリ林の造成事が採択!	2~3	組合の新しいメンバー紹介	6
大阪府こころの健康総合センター木質化工事	4	淀川区役所に木製品を贈呈	6
森林の再生に向け 市民共創の森植樹祭を開催	4	山の見え方が変わる!? 新人林業士レポート	6

農林中央金庫の公募事業に 当森林組合応募の能勢町での クヌギ林とクリ林の造成事業が採択!

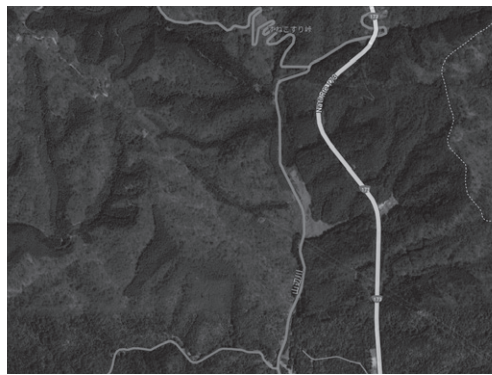
昨年度、農林中央金庫が全国森林組合連合会と共同して昨年4月から6月の間に募集された「公益信託農林中金森林再生基金(農中森力基金)助成事業」に、当森林組合から能勢町でのクヌギ林とクリ林の造成事業を応募していました。今年3月18日に事業採択の通知を受けました。

事業名は、クヌギ林とクリ林の育成による「広葉樹林業」のモデル構築、また、サブタイトルが「大都市近郊の豊かな生物多様性を育む里山を未来につなぐ」としていました。

本公募事業の募集要件の概要は、左表のとおりですが、今回の事業採択では、本公募事業における助成金の上限額である3000万円の助成が認められ、今年度1年間の事業期間として、能勢町の山辺

地区において、土地所有者である上山辺生産森林組合のご協力により雑木林での更新伐からクヌギとクリの植栽、あわせて作業道整備や獣害対策なども施工する事業に取り組みます。

今回、この採択事業の概要についてご紹介します。



事業対象地の航空写真

農中森力基金助成事業の概要

【助成対象事業】

・民有林の公益性を発揮させることを目指した活動であって、地域の森林に対する長期ビジョンをもった活動で、かつ費用対効果に十分配慮した創造性が高いと認められる次の取組みに助成金を支給。

- ①複数の所有者との長期契約に基づく、5ha以上のひとまとまりとなった荒廃林の再生事業
 - ②①に付帯する林地境界の明確化、林地調査、不在村者調査
 - ③その他目的を達成するために必要な事業
- ・また、助成終了後も継続性・波及性が認められる事業や過去に例の少ない先進的的事业であるかなども審査ポイント
- ・さらに、今回の公募では、「再造林」、「里山(生物多様性保全等)」が推奨テーマとされていました

【助成対象者】

・営利を目的としない法人で、過去の活動歴からみて本活動を運営するに十分な能力、知見を有する団体(地方公共団体は除く)

【助成金額】

・1件あたりの助成金の限度額は3000万円

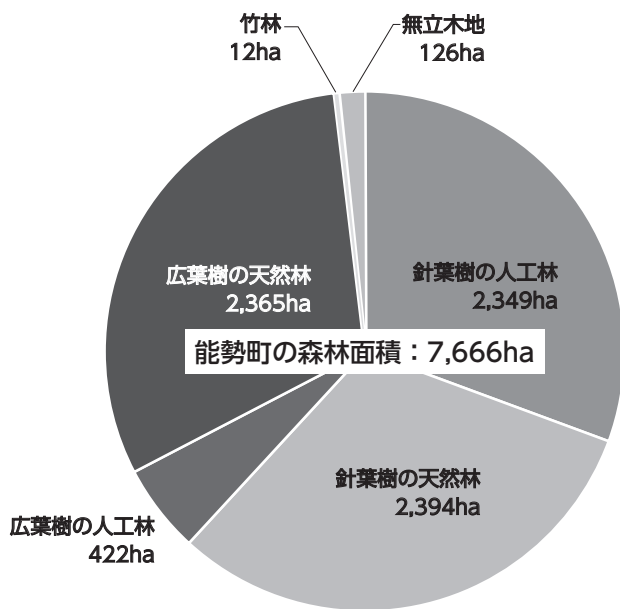
【助成期間】

・助成の対象となる事業の実施期間は、原則として2024年4月1日以降に開始し、2025年3月31日以前に終了すること

【選考方法】

・令和5年度に現地確認も含めた審査を実施し、採択事業を選定

能勢町の森林の資源構成



事業の実施場所と 事業コンセプト

事業の実施場所は、府内市町村の中でもダントツにクヌギとクリが多く生育する能勢町の山辺地区



事業対象地の雑木林

の雑木林で、事業実施面積は6haです。

事業コンセプトとしては、次の



クリの花を吸蜜するウラギンヒョウモン



民家の裏山にある能勢町のクリ林

とおりです。

- ・能勢町では、古くは新炭林として利用されたクヌギ林や民家の裏山や山の斜面地にあるクリ林が多く見られ、そうした広葉樹林が豊かな生物多様性を保全
- ・一方で、森づくりへの関心の低下や担い手不足などから、管理放棄による敷状化等が進行し、鹿や猪の生息域の拡大を招く状況
- ・そこで、能勢町内の森林面積の約4割を占める雑木林を対象に、クヌギの再造林とともに薪を生産し、薪ストーブ設置が見込めるゆとりある敷地の住宅地が近隣に広がることからストーブ用の新たな薪需要を期待
- ・また、栗の収穫のみならず材の硬質性から床材などの利用価値が見込めるクリの植栽もあわせて実施し、大都市近郊の新たな林業として「広葉樹林業」のモデルを構築

事業内容

前述の事業コンセプトを踏まえ、本事業では、次表のとおりハードとソフトの両方の取組みを行います。

ハード事業としては、敷状化が進行する雑木林で地ごしらえを含む更新伐を実施し、伐採後には、能勢町の在来樹種であるクヌギとクリの苗木を植栽します。

また、植栽した苗木を鹿の食害から守るため、25m×15mの方形の防護柵を植栽地内にパッチ状に配置(パッチディフェンス)します。

このパッチディフェンスの区画は、クヌギの植栽地で9箇所、クリの植栽地で10箇所合計19箇所を設置します。府内では、このような規模でのパッチディフェンスの施工はこれまでに事例がなく、

	内容	事業費
ハード	雑木林での更新伐(地拵え)	約27,000千円
	クヌギとクリの植栽(クヌギ5.2ha、クリ0.8ha)	
	獣害柵の設置(パッチディフェンス施工)	
	作業道の整備	
ソフト	森林所有者との座談会の開催	約3,000千円
	資源量や林床植生の調査等	
	クヌギ林育成・管理マニュアルの作成・普及	
	里と都市(豊中市・吹田市)のネットワーク会議の開催	

※本事業での伐採搬出材から薪生産を実施



パッチディフェンスの施工事例(写真:宮川森林組合より提供)

森林組合においても初めての取組みとなります。

さらに、雑木林で伐採した材の搬出と植栽後の維持管理のための作業道も整備することとしています。

次に、ソフト事業では、まず事業地の土地所有者である上山辺生産森林組合の組合員の方々に、実施する事業内容についてあらためて詳細説明を座談会形式で行います。この座談会の開催後、ハード

事業実施前に事業地内の森林で生育する樹種や伐採せずに残存させる樹木の調査、さらには林内の下層植生調査を実施します。

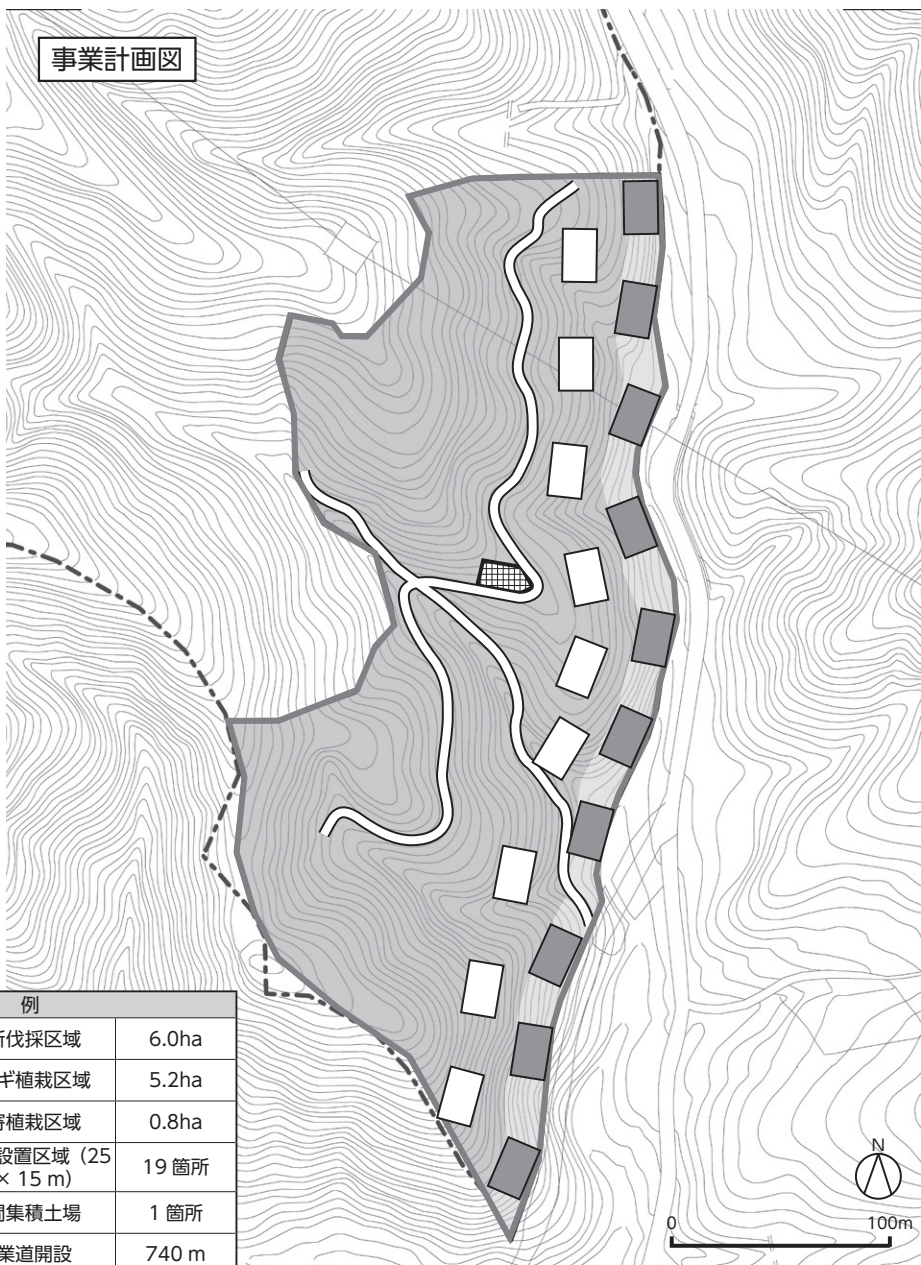
また、「助成終了後も継続性・波及性が認められる事業」という今回の助成金事業の採択要件を踏まえ、今回の事業実施後も別の雑木林などで取り組まれるクヌギ林造成の参考になるよう「クヌギ林育成・管理マニュアル」を作成します。このマニュアル作成にあたっては、今回実施するハード事業や各種調査の結果はもとより、能勢町内や近隣地域で数少なくなつたクヌギ林の維持管理やクヌギ材を使った炭焼きに従事されている方に技術ノウハウなどを教示いただくヒアリング調査も実施し、これらの取組みで収集された知見等をマニュアルづくりに活用することとしています。

さらに、能勢町と市民・町民レベルでの交流を促進することを目的として、平成17年にフレンドシップ（友好交流）協定を締結している吹田市や、令和3年に能勢町と森林環境保全に関する自治体間連携の協定締結を行っている豊中市といった都市部の自治体のほか、観光・広報等に精通した団体・事業者等に参画してもらい、体験学習や自然観察などでの事業地の活用方策等を協議するネットワーク会議を開催する予定です。

今回の事業実施で期待できる効果

～能勢町内の雑木林を稼げる森に～

府内では、これまでスギ・ヒノキの整備が森林経営計画の主たる



取組みとなつていますが、今回、本事業の実践を通じて、「クヌギ林育成・管理マニュアル」を作成し、町内の里山所有者に、薪炭材として短期的に収入確保が期待できるクヌギ林造成の普及啓発に取り組んでいきます。また、近年、能勢町では、まとまった面積で町内の財産区有林が町有林に転換されていますが、新たに町有林化した森林でも雑木林が多く見られます。そこで、今後は、町有林においてもクヌギ林を造成することで経済的価値のある森づくりを進められるよう能勢町と協議していきます。

～能勢の特徴的な里山景観を醸し出すクリ林を造成、同時に銀寄栗の復興も～



銀寄栗

本事業では、能勢名産の銀寄(ぎんよせ)栗の苗木を植栽します。銀寄栗は、能勢町において約3百年もの栽培の歴史を有し、大粒でツヤがあり、甘みが強いといった高品質の栗として消費者に人気のある品種の栗です。能勢町にある道の駅・くりの郷では、銀寄栗の

販売が行われる時期には、道の駅へのアクセス道路に車が連なる状況が毎年見られます。能勢町のクリ林は、前述したとおり民家の裏山や山の斜面地に多く見られます。こうしたクリ林が山に溶け込んだような姿が能勢町独特の里山景観を形成しています。が、近年、能勢の栗の代名詞である銀寄栗の出荷量が大きく減退する状況にあります。栗生産減退の要因としては、栗栽培農家の減少や高齢化に加え、鹿による新植したクリの苗木の食害などもあるようです。本事業で

のPATCHデザイン施工によるクリ林の造成手法が能勢町内のクリ林の維持保全に寄与することを期待しています。

～大都市近郊の里山の環境づくりを通じた都市と農山村の交流拡大～

本事業のソフト活動で実施するネットワーク会議を通じて、本事業の実施エリアで吹田市や豊中市の都市住民の方々に対象に、生物多様性を育む里山の環境づくりへの理解促進につなげる体験行事の企画・実施にも取り組んでいく予定です。

～新材の生産・販売の拡大を基軸にした「広葉樹林業」の展開をめざして～

今回、事業採択いただき、令和6年度にクヌギ林造成のモデルづくりに取り組むことで、地域にあ



箕面森町の住宅で設置された薪ストーブ (榊田中工務店より写真提供)

る手つかずの里山の雑木林を価値ある森に転換していくサンプルになると考えます。広葉樹の新材の需要見込みについては、ここ10年近くの豊能支店での薪の販売実績を見ても毎年1万束程度を販売してきており、ここ数年では販売直後3カ月程度で売り切れる状況で、消費者の旺盛なニーズがうかがえます。豊能支店から車で30分程度のエリアには、都市部に比べ敷地面積が広い戸建て住宅が立ち並ぶ郊外住宅地が府内外に集積しています。中でも郊外住宅地としては新しい箕面森町では、薪ストーブを入れられている戸建住宅も数多く見られ、豊能支店から広葉樹の薪を購入されている顧客もおられるようです。今回の事業を契機として、こうした広葉樹の薪の需要ポテンシャルにも応えつつ、地域の里山の再生につながる「広葉樹林業」を展開していきます。



大阪府こころの健康総合センター 木質化工事

毎年、大阪府より森林環境譲与税を活用した大阪府内産木材利用促進モデル整備等事業の公募があり、当組合では毎回、共同事業者を組織しエントリーしています。

令和4年度の「門真運転免許試験場」の木質化提案に引き続き、令和5年度の「大阪府こころの健康総合センター」の木質化工事も設計施工する企業3社(林田建築設計事務所・飛騨産業株式会社・大阪府森林組合建築事業部)で「かわちの森共同企業体」を組織し、それぞれの特性を生かした企画を立案し申請したところ、6団体がエントリーする中、僅差で最優秀提案事業者として採択されました。

テーマ

今回の申請に関わる提案の大きなテーマは、川上側が提供する無駄のない多様な木材活用を目指してです。

「適切な森林維持管理」と「木材利用の促進の取り組み」には、川上・川下のそれぞれが抱える様々な問題を内在しています。今回は、その解決策の一つとして木材供給

の川上側から、公共建築物として木材を利用する川下側に対して、汎用性を加味した整備手法を導き出し、「木材を使い切る」ことを提案しました。

コンセプト

そして「みんなにやさしく使い切る」を具体的な提案の全体コンセプトとして位置づけ、大阪府内産木材を最大限に活用するためには、川上から川下に届くまでの歩留を、既成概念にとらわれず「使い切る」ことを大切にしました。



既存の天板を利用したひょうたんベンチとツール

また、木製什器にも様々な役割を持たせ、設置場所における最良の使用方法に合わせて空間を「使い切る」ことも大切にしています。さらに「みんな」には、施設の訪問者・利用者・管理者・事業者を指し、「やさしく」という言葉には「優しく」と「易しく」という2つの意味を込めました。

このようなコンセプトで施設整備を図りながら、川下側に大阪府内産木材の活用推進を図るための「木材利用マニュアル」を製作。さらに過去も含め現地研修会で寄せ

木質化空間の整備内容及び整備手法の各コンセプト

- ①協働して使い切る
多様な技術力を持つ協力企業と協業し関西近隣で使い切る
- ②資源を使い切る
【SDGs 目標12：つくる責任・つかう責任】
大阪府内産木材を使い切る
既存什器をリユースし使い切る
- ③空間をやさしく使い切る
施設の特性に適應した空間の使い方の工夫
・開かれた対話に向かう、優しい空間
・レイアウトを易く変更し使い切る
・五感に優しい「座面」と「姿勢」
・五感に優しい空間「触覚」
・五感に優しい空間「視覚」
・五感に優しい空間「嗅覚」
本事業は木質化のモデルとなる必要があるため、易しい汎用例としての空間設計を意識しました。
- ④メンテナンスもやさしい
・8年保証・毎年1回の点検
・クッションは洗濯可能
・家具はアルコール・次亜塩素酸 Na 対応
・修理メンテナンス体制も万全



スチールの脚と府内産木材を組み合わせた什器類



られた質問とその答えをまとめた「QAブック」も製作し公開するなど、今後の大阪府内産木材の事業展開も見据えた事業として取り組みました。



既存の会議机の脚をリユース



室内の仕上げにも木材を使用

森林の再生に向け 市民共創の森植樹祭を開催



本年4月6日、高槻森林観光センター隣接の山林で「市民共創の森 植樹祭」が開催されました。街中ではちょうど花見のピークを迎えていた当日、まだセンター園内の桜は5分程度の開花状況でしたが、晴天と陽気に恵まれ、とても賑やかなムードでした。

主催者を代表した地元連合自治会の古前会長とともに、高槻市・濱田市長、大阪府北部農と緑の総合事務所・村山所長、栗本組合長の4名が、山裾を通る主要道路からも目立つ山林斜面の尾根先端にヤマザクラを植樹したのを皮切りに、地域住民や児童、森林ボランティア、一般市民などおよそ100名の参加者が分散して植樹作業を行いました。

ここは平成30年の台風により全面倒壊被害を受け、その後、倒木を撤去したものの、まだ植樹が進んでいない現状ですが、当地の里山風情を踏まえつつ、景観や実の採取、防災など様々な観点で森に親しめるように、アカマツ、シバグリ、ヤマモモ、ヤマザクラなど複数の種類をゾーン分けして植樹しました。またニホンジカによる食害対策のための、苗木を防護す

るネットの取付作業も参加者自らが行いました。

お住まいも年齢も森林への関わり方も様々な参加者が集い協力して、多様な価値を共有する森を創っていく、そんな「市民共創の森 植樹祭」も今回で3年目を迎えました。

まだまだ森林再生には先が長いですが、この1年の間に、市民参加の植樹活動以外でも、「大阪府協同組合・非営利協同セクター連絡協議会」の加盟団体や、大阪府アドプトフォレスト制度による「鉄建建設株式会社」の植樹活動が展開され、約800本の苗木が植えられました。

今後も市民協働による植樹を進めていきたいところですが、約7ヘクタールの斜面被災林を市民の力だけに頼るのは、時間的にも技術的にも難しいのが現実です。



大きな樹木に育つ願いを込めて家族で植樹

市民共創の森協議会に参画いただいている、地元自治会、森林ボランティア団体、観光協会、高槻市、高槻市林業推進協議会による合意形成やサポートをいただきながら、再造林事業等の導入を今年度から着手する予定です。

またこのように市民や行政と連携して醸成される機運を大事にして、依然市域に残る被災林の復旧や健全林の育成に一層注力します。

7月27日(土)・28日(日) 子ども夏まつり開催



「おおさか河内材」の端材で
自由に好きなものをつくってみよう。
夏休みの自由課題にもおすすめ!

■ 子どもお一人・1,000円

- 7/27(土): 13:30 ~ 16:00(20名限定)
- 7/28(日): 9:30 ~ 12:00(20名限定)

7月7日(日)より先着順のお申込み

※付き添いはお一人までをお願いします

施設名	イベント名	内容	開催日	申込
木根館	季節のワンコイン「マグネット」	おおさか河内材のスギとヒノキで、木の風合いを残した「マグネット」を3つ作ります。	7月6日(土)より	先着100セット 参加費500円
ラ・フォレスタ	夏休み直前子ども講座 奄美大島の自然とカエル	奄美大島とカエルが好きな浅妻祐一郎さんの楽しいお話しをしていただきます	7月15日(月・祝) 10:00~11:00	定員15名 参加費300円
木根館	かんなのはな 「ユリと魔法のほうきのスワッグ」	魔法のホウキに見立てたヒノキの枝にかんなのはなのユリとドライフラワーでスワッグづくり	7月21日(日) 9:30~12:30	6/7 申込開始 先着10名 参加費3,000円
ラ・フォレスタ	吉野和紙のはなしと紙漉き体験	講師の植浩三さんから紙の原料となる楮の栽培や紙漉きのお話しと体験を指導いただきます	7月28日(日) 13:30~15:30	定員10名 参加費2,900円
ラ・フォレスタ	丘の上のきのこブローチ	ガラスの側面を銅のテープで巻きはんだ付けで仕上げたきのこのブローチを2個つくります	8月23日・25日 13:00~16:00	各回6名 参加費3,000円

Facebook / ホームページをご覧ください

木根館 ラ・フォレスタ イベント情報

●木根館 ☎0721-64-8151
ホームページ▶
<http://www.sinrin.org/kinkonkan>


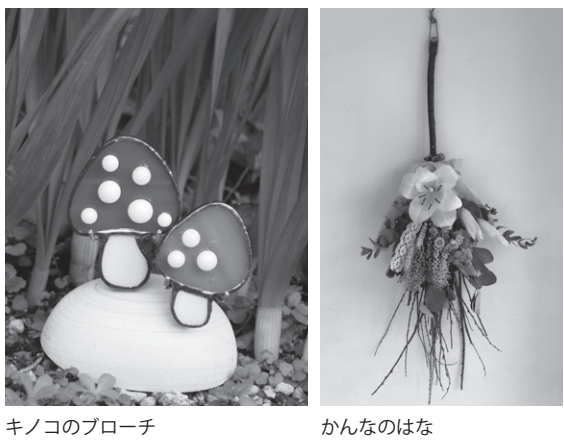
●ラ・フォレスタ ☎0721-72-0090
ホームページ▶
<http://www.sinrin.org/foresta/>

LINE公式アカウントはじめました

友達登録いただくと「木工体験100円引きクーポン」をプレゼント中。その他イベント情報などをお届けしています。

登録方法① QRコードを読み取り「kinkonkan-木根館」を追加して登録

登録方法② ID検索で「@506ykozqj」を入力して登録

遺言があるなど相続する人間が確定していれば、登記手続きは司法書士に依頼、もしくは自ら手続

「登記申請の義務化」「10万円以下の過料」など厳しい言葉が並んでいます。あくまでも「自らが相続人であることを知り」かつ「不動産を相続により取得してから3年以内」に登記申請を行えばよいということ。

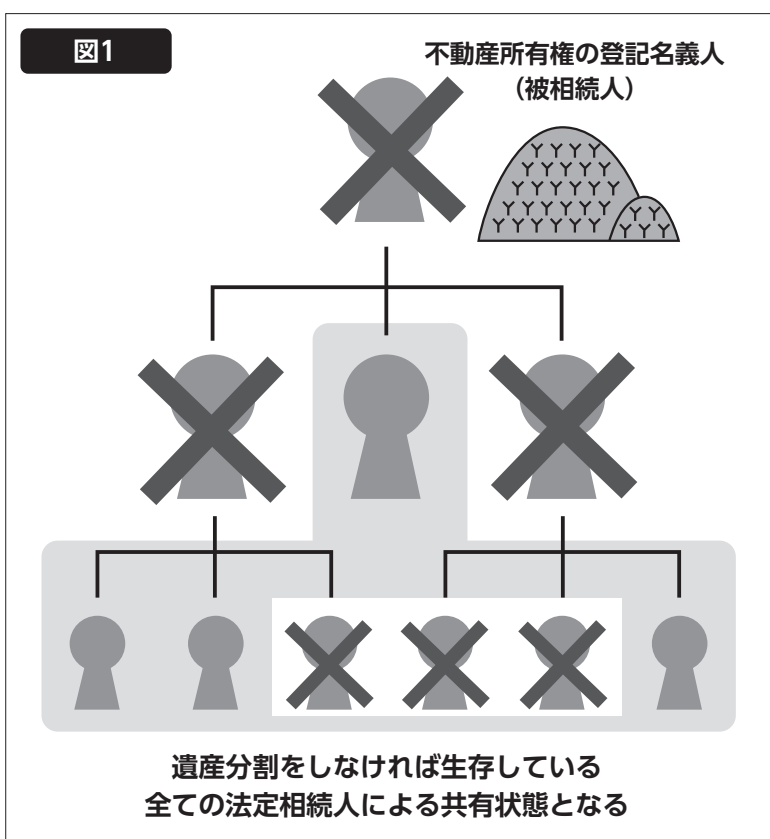
大阪しんりんくみあい通信のV O I ・40号で民法・不動産登記法の改正をお伝えしました。その中の「相続登記の義務化」が令和6年4月1日より施行されます。

これは相続により不動産の所有権を取得した相続人は、その取得を知った日から3年以内に相続登記の申請が義務付けられ、正当な理由がないのに、その申請を行わなかった場合、10万円以下の過料の適用対象となるというものです。

また令和6年4月1日以前に相続手続きが開始されている場合でも、一定の猶予期間は設けられるものの義務化の対象となります。

相続登記が義務化

~正しい知識をもって対応

問題を登記手続きではなく、時間と手間を要する遺産分割協議な

「相続登記」は複数人の相続人が存在

このように、様々な理由から速やかに相続登記ができない場合は「**相続人申告登記**」という手続きを行うことで、相続登記の義務を履行したと見なされます。「相続人申告登記」は複数人の相続人が存在

する場合でも、特定の相続人が単独で申請することが可能で、必要とされる書類も申請する相続人が不動産名義人の相続人であることがわかる戸籍簿本などを準備すれば足りるとされています。

「過料」の適用も免れます。

しかし、あくまでも「相続人申告登記」は一時的な措置に過ぎません。やはり時間がかかっても相続手続きを進めることが必要で、将来的に対象不動産を売却もしくは抵当権の設定等を行う際は、正式な相続登記をしなければいけません。

現在、日本全国で長期間未登記の土地が約410万haに上るとされています。遺産分割協議は非常に手間のかかる作業を伴いますが、それぞれが所有する不動産を後世に引き継ぐことが、これ以上、長期間未登記の土地等の不動産を増やさないことにもつながるのです。

組合の新しいメンバー紹介

令和6年1月4日より2名の新たな組合職員が誕生しました。三島支店に配属された山崎大輝君と南河内支店に配属された仙田武史君です。

山崎君は1999年生まれの24歳。文系学生だった山崎君は学業よりもアルバイトに精を出していたとのことで、森林・林業に関しても在学中に奈良県で実施された林業就業支援講習を受講し、チェーンソーによる伐木等特別教育と刈払機取扱作業安全衛生教育等を取得していました。採用時の作文では作業員間のコミュニケーションの大切さと安全に対する意識を高める必要性を書き記

してました。その初心を忘れることなく技能と技術の研鑽に努めてほしいと考えています。

仙田君は1994年生まれの31歳。公立の森林・林業を学ぶ専門学校を卒業後、素材生産・搬出の企業で勤務のかたわらフォレストワーカー研修を修了。現場で求められる各種の資格取得だけでなく、GISの操作なども習熟するなど、様々な経験を積んできました。同じく採用時の作文では作業履歴の保存・保管の大切さを書き記しています。几帳面な性格が窺える仙田君が、自らの軌跡を大阪府内の森林に残せるよう頑張りたいと思います。



山崎大輝君



仙田武史君

淀川区役所に木製品を贈呈 農林中央金庫大阪支店様のCSR事業

農林中央金庫大阪支店様におかれては地域材を活用した木製品を大阪府内の公共施設のオープンスペースに寄贈する事業を進められておられます。



淀川区のキャラクター「夢ちゃん」

今年度は大阪市淀川区役所のロビーに設置されたベンチの製作を組合に発注いただき、昨年12月に納品、本年2月に贈呈式が執り行われました。

このベンチはおおさか河内材を加工した台形集成材を使用しており全6基。設置スペースや使用用途に応じて、それぞれを単独で、また様々な形に連結して使用することができる優れたもののデザインを採用。座面も大きく、様々な活用が図れるベンチです。

さらに淀川区の担当者様の依頼で、各ベンチに表情を変えた淀川区のキャラクター「夢ちゃん」が書かれたプレートを埋め込むなど、しっかり淀川区をアピールすることも忘れていません。

この事業により、様々な公共施設に大阪府内産木材の木製品の設置が広がりを見せており、今後も農林中央金庫大阪支店様の支援をいただきながら、事業の推進を図りたいと考えています。



贈呈式と贈呈されたベンチ

山の見え方が変わる!? 新人林業士レポート

昨年4月より入組し、2年目に突入しました岡です。今まで森林と直接関わってこなかった私は、毎日驚きの日々を過ごしています。このコーナーでは、そんな驚きの一部を皆さんに共有していきます。普段、街で暮らしていると知ることができない森林・林業について、私が学んだことをレポートとしてまとめていきます。

第2歩目は、原木の材積の求め方についてです。原木価格は〇〇円/㎡という単位で取り引きされていますが、原木の1㎡とはいったいどの程度の大きさなのでしょう。大阪府森林組合が運営する木材共販所にて開催された原木の競り市に取材をしてきました。

図1のように、原木の先端側の細い切り口を「末口」と呼びます。材積の計算には、この末口の樹皮を除いた最小直径が必要です。原木の中心を通るようにして、1番短い場所を測ります。原木の長さが6m未満の場合、[末口の最小直径] (m) × [末口の最小直径] (m) × [原木の長さ] (m) で材積を求めることができます。つまり、原木を四角形のものとして仮定する式です。この式をもとに、実際に市に出ている材(図2)を例にあげると、末口40cm (0.4m) × 末口40cm (0.4m) × 長さ4m = 0.64㎡になります。このように、一見大きく見える材でも1㎡には届きません。

ちなみに、この図2のヒノキ原木ですが、3月15日(金)の競り市にて、9万円/㎡で落札されていました。原木の価格には、樹種や大きさだけでなく、曲がりや腐り、節の有無、割れなど様々な要因が影響します。先々月の市に出された同じ大きさのヒノキ原木は5.5万円/㎡での落札でした。新人の私には何の差があるのか理解できていませんが、これからゆっくり学んでいこうと思います。

原木の材積を具体的な量で想像できるように

なると、木材に対する見え方が変わりました。近年はスマート林業化によって、撮影するだけで材積を測定できる方法もあるようですが、元の計算式を知っておくことも大切です。



図1 末口の考え方



図2 出品されていたヒノキ原木



丸大食品

心に残る贈り物

丸大のギフトは、どなたにも喜ばれます

大阪府森林組合の皆様には特別価格でご案内申し上げます。同封のチラシをご覧ください。

丸大食品株式会社 中日本特販営業課
〒557-0063 大阪市西成区南津守2-1-10
TEL 06(6657)0071 FAX 06(6657)1090